

参考資料－3－②

令和元年度第1回

沖縄総合事務局

開発建設部

事業評価監視委員会

## 再評価結果（原案）

### ○竹富南航路整備事業

沖縄総合事務局開発建設部

## 参考資料 1

事業名 (箇所名)	竹富南航路整備事業 (竹富地区)		担当課	本省港湾局計画課		事業 主体	沖縄総合事務局																																																																								
			担当課長名																																																																												
実施箇所	沖縄県竹富町																																																																														
該当基準	社会経済情勢の変化																																																																														
主な事業の諸元	航路(水深3m～水深4m)																																																																														
事業期間	事業採択	平成23年度	完了	令和3年度																																																																											
総事業費(億円)	69	残事業費(億円)		7																																																																											
目的・必要性	<p>&lt;解決すべき課題・背景&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・航路が未整備であるため浅瀬が多く、船舶の浅瀬への乗換、船底接触事故の発生、航行時の潮待ちや、目視航行により浅瀬を回避することによる輸送時間のロスが生じている。</li><li>・船社においては、浅瀬に対応した高価なウォータージェット船を購入しなければならない。</li><li>・水中の暗礁を目視確認しながら航行しなければならないため、日中のみの運航に制限されており、夕方における急患輸送等の問題が生じている。</li></ul> <p>&lt;達成すべき目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・必要水深・航路幅等を確保することにより、海難事故の減少を図る。</li><li>・離島住民への生活物資の安定供給および早朝や夕方の急患輸送等への対応により地域の安心・安全を確保する。</li><li>・船舶の航行時間の短縮(潮待ち解消含む)を図り、生活物資の輸送コストや移動コストの削減を図る。</li></ul>																																																																														
上位計画の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会資本整備重点計画(第4次) 重点目標4 民間投資を誘発し、経済成長を支える基盤を強化する。 4-2 地方圏の産業・観光投資を誘発する都市・地域づくりの推進</li><li>・沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画 平成24年度～平成33年度) 基本施策3 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して (1)自立型経済の構築に向けた基盤の整備 施策展開イ 人流・物流を支える港湾の整備</li></ul>																																																																														
事業の多面的な効果	<p>■政策目標・施策目標</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・政策目標:国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化</li><li>・施策目標:海上物流基盤の強化等総合的な物流体系整備の推進、みなとの振興、安定的な国際海上輸送の確保を推進する。</li></ul> <p>■定性的・定量的な効果</p> <p>&lt;定性的な効果&gt;</p> <p>①離島住民の生活の安心・安全性の向上</p> <p>②観光業の活性化</p> <p>③交流機会の拡大</p> <p>④船長の心理的負担の解消</p> <p>&lt;定量的な効果&gt;</p> <p>①海難の減少</p> <p>②旅客移動の効率化</p> <p>③貨物輸送の効率化</p> <p>④救急搬送の減少</p> <p>■定量的効果のうち投資効率性</p> <p>○便益の主な根拠</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・海難の減少(令和4年度予測航行隻数:50,600隻/年)</li><li>・移動コストの削減(令和4年度予測利用旅客数:1,766千人/年)</li></ul> <table><tr><td colspan="2">基準年度</td><td colspan="2">令和元年度</td><td colspan="6"></td></tr><tr><td>B:総便益(億円)</td><td>98</td><td>C:総費用(億円)</td><td>85</td><td>EIRR(%)</td><td>4.7</td><td>B-C</td><td>13</td><td>全体B/C</td><td>1.2</td></tr><tr><td>B:総便益(億円)</td><td>98</td><td>C:総費用(億円)</td><td>10</td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>継続B/C</td><td>9.3</td></tr><tr><td colspan="2">需 要 (-10% ～ +10%)</td><td colspan="2">事業全体のB/C</td><td colspan="2">残事業のB/C</td><td colspan="3"></td><td></td></tr><tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">1.0 ～ 1.3</td><td colspan="2">8.4 ～ 10.3</td><td colspan="3"></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">建設費 (+10% ～ -10%)</td><td colspan="2">1.1 ～ 1.2</td><td colspan="2">8.5 ～ 10.4</td><td colspan="3"></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">建設期間 (+10% ～ -10%)</td><td colspan="2">1.2 ～ 1.2</td><td colspan="2">9.3 ～ 9.3</td><td colspan="3"></td><td></td></tr></table>									基準年度		令和元年度								B:総便益(億円)	98	C:総費用(億円)	85	EIRR(%)	4.7	B-C	13	全体B/C	1.2	B:総便益(億円)	98	C:総費用(億円)	10					継続B/C	9.3	需 要 (-10% ～ +10%)		事業全体のB/C		残事業のB/C								1.0 ～ 1.3		8.4 ～ 10.3						建設費 (+10% ～ -10%)		1.1 ～ 1.2		8.5 ～ 10.4						建設期間 (+10% ～ -10%)		1.2 ～ 1.2		9.3 ～ 9.3					
基準年度		令和元年度																																																																													
B:総便益(億円)	98	C:総費用(億円)	85	EIRR(%)	4.7	B-C	13	全体B/C	1.2																																																																						
B:総便益(億円)	98	C:総費用(億円)	10					継続B/C	9.3																																																																						
需 要 (-10% ～ +10%)		事業全体のB/C		残事業のB/C																																																																											
		1.0 ～ 1.3		8.4 ～ 10.3																																																																											
建設費 (+10% ～ -10%)		1.1 ～ 1.2		8.5 ～ 10.4																																																																											
建設期間 (+10% ～ -10%)		1.2 ～ 1.2		9.3 ～ 9.3																																																																											
社会経済情勢等の変化	・事業費の増加、工期の延長および離島航路旅客数の増大																																																																														
主な事業の進捗状況	総事業費69億円、既投資額62億円 令和元年度末現在 事業進捗率90%																																																																														
主な事業の進捗の見込み	令和3年度に完成予定																																																																														
コスト縮減や代替案立案等の可能性	コスト縮減の可能性:今後の事業実施に際して適切に対応していきたい。 代替案等の可能性:特になし																																																																														
対応方針	継続																																																																														
対応方針理由	十分な事業の投資効果及び進捗の目途が確認されたため																																																																														
その他	<第三者委員会の意見・反映内容>																																																																														

竹富南航路整備事業  
費用便益の概要

便益

項目	区分	単位当りの便益			便益(代表年)
		単位	備考	単位	
利用者便益	海難の減少	60,169	千円/隻	海難事故による損失の回避便益	1.56 億円/年
	移動コストの削減	149	円/人	船舶航行時間短縮による 旅客の移動コスト削減	2.62 億円/年
	輸送コストの削減	3,598	円/隻	船舶航行時間短縮による フェリー輸送コスト削減	0.09 億円/年
	輸送コストの削減	21	千円/回	潮待ち運航の解消による 海上輸送コスト削減	0.01 億円/年
	輸送コストの削減	30,000	千円/隻	吃水の浅い特殊船舶建造の解消による 建造コスト削減	0.45 億円/年
	救急搬送の減少	2,641	千円/回	救急搬送のヘリコプター輸送コスト削減	0.16 億円/年

費用  
\*便益の算出にあたっては、「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル(平成29年3月)」を参照

費用項目	建設費、維持管理費
事業の対象施設	航路(水深3.0～4.0m)

## 参考資料 3

### 便益算出詳細資料

#### 〔海難事故の減少便益〕

本事業の実施により、乗揚事故・海底接触事故等の海難事故が減少することに伴う損害が回避される便益を計上する。

本プロジェクトの実施により、1.56億円/年の海難事故による損失が回避可能となる。

#### 【船舶損傷に伴う損害額＜高速船＞】

項目	With 時	Without 時
海難隻数(隻/年)	0.0	2.4
1隻当り新造船価格(千円/隻)	174,000	
海難損傷別船体損傷率(軽微損傷)	0.2	
船舶損傷に伴う損害額(千円/年)	0.0	83,520
船舶損傷に伴う損害便益(億円/年)	0.8	

#### 【船舶修繕期間中の損害額＜高速船＞】

項目	With 時	Without 時
海難隻数(隻/年)	0.0	2.4
1隻当りチャーター料金(千円/隻・日)	400	
船種損傷別修繕期間(日)	60	
船舶修繕期間中の損害額(千円/年)	0.0	57,600
船舶修繕期間中の損害便益(億円/年)	0.6	

#### 【人的被害(負傷)損害額＜高速船＞】

項目	With 時	Without 時
海難隻数(隻/年)	0.0	2.4
1隻当り被害者数(人/隻)	0.1	
人的損失額(千円/人)	1,920	
人的被害(負傷)損害額(千円/年)	0.0	461
人的被害(負傷)損害便益(億円/年)	0.005	

海難事故の減少便益＜高速船＞ 合計(億円/年)	1.42
-------------------------	------

便益算出詳細資料

【船舶損傷に伴う損害額＜フェリー＞】

項目	With 時	Without 時
海難隻数(隻/年)	0.0	0.2
1隻当り新造船価格(千円/隻)	170,000	
海難損傷別船体損傷率(軽微損傷)	0.2	
船舶損傷に伴う損害額(千円/年)	0	6,800
船舶損傷に伴う損害便益(億円/年)	0.07	

【船舶修繕期間中の損害額＜フェリー＞】

項目	With 時	Without 時
海難隻数(隻/年)	0.0	0.2
1隻当りチャーター料金(千円/隻・日)	600	
船種損傷別修繕期間(日)	60	
船舶修繕期間中の損害額(千円/年)	0	7,200
船舶修繕期間中の損害便益(億円/年)	0.07	

【人的被害(負傷)損害額＜フェリー＞】

項目	With 時	Without 時
海難隻数(隻/年)	0.0	0.2
1隻当り被害者数(人/隻)	0.1	
人的損失額(千円/人)	1,920	
人的被害(負傷)損害額(千円/年)	0	38
人的被害(負傷)損害便益(億円/年)	0.0004	

【積み荷被害損害額＜フェリー＞】

項目	With 時	Without 時
海難隻数(隻/年)	0.0	0.2
1隻当り積み荷額(千円/隻)	20,098	
損傷別積み荷損傷率	0.2	
積み荷被害損害額(千円/年)	0	804
積み荷被害損害便益(億円/年)	0.008	

海難事故の減少便益＜フェリー＞ 合計(億円/年)	0.15
--------------------------	------

海難事故の減少便益 合計(億円/年)	1.56
--------------------	------

便益算出詳細資料

〔移動コストの削減〕

本事業の実施により、旅客移動時間短縮による移動コストが削減される便益を計上する。  
本プロジェクトの実施により、2.62億円/年の移動コストが削減可能となる。

【移動コスト削減便益[石垣/大原]】

項目	With 時	Without 時
旅客数[石垣/大原](人/年)	666,627	666,627
船舶移動時間[石垣/大原](分)	30	35
旅客時間費用原単位(円/分・人)	36.8	36.8
移動コスト[石垣/大原](億円/年)	7.4	8.6
移動コスト削減便益[石垣/大原](億円/年)	1.2	

【移動コスト削減便益[石垣/小浜]】

項目	With 時	Without 時
旅客数[石垣/小浜](人/年)	648,670	648,670
船舶移動時間[石垣/小浜](分)	22	25
旅客時間費用原単位(円/分・人)	36.8	36.8
移動コスト[石垣/小浜](億円/年)	5.3	6.0
移動コスト削減便益[石垣/小浜](億円/年)	0.7	

【移動コスト削減便益[石垣/黒島]】

項目	With 時	Without 時
旅客数[石垣/黒島](人/年)	122,411	122,411
船舶移動時間[石垣/黒島](分)	24	27
旅客時間費用原単位(円/分・人)	36.8	36.8
移動コスト[石垣/黒島](億円/年)	1.1	1.2
移動コスト削減便益[石垣/黒島](億円/年)	0.1	

【移動コスト削減便益[石垣/波照間]】

項目	With 時	Without 時
旅客数[石垣/波照間](人/年)	137,223	137,223
船舶移動時間[石垣/波照間](分)	55	60
旅客時間費用原単位(円/分・人)	36.8	36.8
移動コスト[石垣/波照間](億円/年)	2.8	3.0
移動コスト削減便益[石垣/波照間](億円/年)	0.3	

【移動コスト削減便益[小浜/竹富]】

項目	With 時	Without 時
旅客数[小浜/竹富](人/年)	51,783	51,783
船舶移動時間[小浜/竹富](分)	20	22
旅客時間費用原単位(円/分・人)	36.8	36.8
移動コスト[小浜/竹富](億円/年)	0.4	0.4
移動コスト削減便益[小浜/竹富](億円/年)	0.04	

【移動コスト削減便益[小浜/大原]】

項目	With 時	Without 時
旅客数[小浜/大原](人/年)	49,673	49,673
船舶移動時間[小浜/大原](分)	28	33
旅客時間費用原単位(円/分・人)	36.8	36.8
移動コスト[小浜/大原](億円/年)	0.5	0.6
移動コスト削減便益[小浜/大原](億円/年)	0.1	

【移動コスト削減便益[大原/竹富]】

項目	With 時	Without 時
旅客数[大原/竹富](人/年)	89,668	89,668
船舶移動時間[大原/竹富](分)	33	38
旅客時間費用原単位(円/分・人)	36.8	36.8
移動コスト[大原/竹富](億円/年)	1.1	1.3
移動コスト削減便益[大原/竹富](億円/年)	0.2	

移動コストの削減便益 合計(億円/年)	2.62
---------------------	------

## 便益算出詳細資料

### 〔輸送コストの削減＜航行時間短縮＞〕

本事業の実施により、貨物輸送時間が短縮されることにより輸送コストが削減される便益を計上する。  
本プロジェクトの実施により、0.1億円/年の輸送コストが削減可能となる。

#### 【輸送費用削減便益[石垣/小浜]】

項目	With 時	Without 時
年間航行隻数[石垣/小浜](隻/年)	992	992
年間輸送貨物量[石垣/小浜](トン/年)	4,972	4,972
海上輸送時間[石垣/小浜](時)	0.73	0.92
海上輸送費用原単位(千円/隻・時)	16.0	16.0
時間費用原単位(円/トン・時)	61.1	61.1
輸送費用[石垣/小浜](億円/年)	0.12	0.15
輸送時間費用[石垣/小浜](億円/年)	0.002	0.003
輸送コスト[石垣/小浜](億円/年)	0.12	0.15
輸送コスト削減便益[石垣/小浜](億円/年)	0.03	

#### 【輸送費用削減便益[石垣/黒島]】

項目	With 時	Without 時
年間航行隻数[石垣/黒島](隻/年)	532	532
年間輸送貨物量[石垣/黒島](トン/年)	2,405	2,405
海上輸送時間[石垣/黒島](時)	0.78	0.97
海上輸送費用原単位(千円/隻・時)	16.0	16.0
時間費用原単位(円/トン・時)	61.1	61.1
輸送費用[石垣/黒島](億円/年)	0.07	0.08
輸送時間費用[石垣/黒島](億円/年)	0.001	0.001
輸送費用[石垣/黒島](億円/年)	0.07	0.08
輸送コスト削減便益[石垣/黒島](億円/年)	0.02	

#### 【輸送費用削減便益[石垣/大原]】

項目	With 時	Without 時
年間航行隻数[石垣/大原](隻/年)	1,050	1050
年間輸送貨物量[石垣/大原](トン/年)	22,310	22,310
海上輸送時間[石垣/大原](時)	1.06	1.31
海上輸送費用原単位(千円/隻・時)	16.0	16.0
時間費用原単位(円/トン・時)	61.1	61.1
輸送費用[石垣/大原](億円/年)	0.18	0.22
輸送時間費用[石垣/大原](億円/年)	0.014	0.018
輸送費用[石垣/大原](億円/年)	0.19	0.24
輸送コスト削減便益[石垣/大原](億円/年)	0.05	

輸送コストの削減便益＜航行時間短縮＞ 合計(億円/年)	0.09
-----------------------------	------

## 便益算出詳細資料

### 〔輸送コストの削減＜潮待ち運航の解消＞〕

本事業の実施により、潮待ち運航が解消されることにより輸送コストが削減される便益を計上する。  
本プロジェクトの実施により、0.01億円/年の輸送コストが削減可能となる。

#### 【潮待ち運航[石垣/小浜]の解消】

項目	With 時	Without 時
貨物量[石垣/小浜](トン/年)	4,972	4,972
潮待ち運航回数 [石垣/小浜](回/年)	0	21
年間運航回数[石垣/小浜](回/年)	312	312
時間費用原単位(円/トン・時)	61.1	61.1
輸送時間費用[石垣/小浜](億円/年)	0.00	0.005
潮待ち運航の解消(億円/年)	0.005	

#### 【潮待ち運航[石垣/黒島]の解消】

項目	With 時	Without 時
貨物量[石垣/黒島](トン/年)	2,405	2,405
潮待ち運航回数 [石垣/黒島](回/年)	0	14
年間運航回数 [石垣/黒島](回/年)	208	208
時間費用原単位(円/トン・時)	61.1	61.1
輸送時間費用 [石垣/黒島](億円/年)	0.00	0.002
潮待ち運航の解消(億円/年)	0.002	

輸送コストの削減便益＜潮待ち運航の解消＞ 合計(億円/年)	0.007
-------------------------------	-------

### 〔輸送コストの削減(船舶建造コスト低減)〕

本事業の実施により、喫水が浅く高価なウォータージェット船の建造が解消されることにより船舶建造コストが削減される便益を計上する。  
本プロジェクトの実施により、0.45億円/年の輸送コストが削減可能となる。

#### 【就航船舶建造コストの低減】

項目	With 時	Without 時
建造コスト(19GT)(億円/隻)	1.475	1.775
建造隻数(19GT)(隻/年)	1.5	1.5
就航船舶建造コスト(19GT)(億円/年)	2.2	2.7
就航船舶建造コストの低減(億円/年)	0.45	

### 〔救急搬送の減少〕

本事業の実施により、日没時間帯においてヘリコプターで搬送されている急患者の輸送コストが削減される便益を計上する。  
本プロジェクトの実施により、0.16億円/年の輸送コストが削減可能となる。

#### 【救急搬送の減少】

項目	With 時	Without 時
ヘリコプター輸送コスト(千円/回)	2,641	2,641
年間輸送回数(回/年)	0	6
年間ヘリコプター輸送コスト(億円/年)	0	0.16
潮待ち運航の解消(億円/年)	0.16	



# 竹富南航路整備事業【全体事業】

費用便益分析シート（割引前）

年度	施設供用 期間	割 引 前								(億円)	
		初期投資・ 更新投資	運営・維持 コスト	総費用 (C)	海難の減少	移動コスト の削減	輸送コスト の削減	救急搬送の 減少	総便益 (B)	純便益 (B-C)	
2011		3.4		3.4						-3.4	
2012		7.8		7.8						-7.8	
2013		12.0		12.0						-12.0	
2014		11.0		11.0						-11.0	
2015		8.8		8.8						-8.8	
2016		8.2		8.2						-8.2	
2017		5.2		5.2						-5.2	
2018		2.6		2.6						-2.6	
2019		3.0		3.0						-3.0	
2020		4.6		4.6						-4.6	
2021		1.6		1.6						-1.6	
2022	1		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2023	2		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2024	3		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2025	4		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2026	5		0.4	0.4	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.6	
2027	6		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2028	7		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2029	8		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2030	9		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2031	10		0.4	0.4	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.5	
2032	11		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2033	12		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2034	13		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2035	14		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2036	15		0.4	0.4	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.6	
2037	16		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2038	17		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2039	18		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2040	19		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2041	20		0.4	0.4	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.5	
2042	21		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2043	22		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2044	23		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2045	24		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2046	25		0.4	0.4	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.6	
2047	26		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2048	27		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2049	28		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2050	29		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2051	30		0.4	0.4	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.5	
2052	31		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2053	32		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2054	33		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2055	34		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2056	35		0.4	0.4	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.6	
2057	36		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2058	37		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2059	38		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2060	39		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2061	40		0.4	0.4	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.5	
2062	41		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2063	42		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2064	43		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2065	44		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2066	45		0.4	0.4	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.6	
2067	46		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2068	47		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2069	48		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2070	49		0.2	0.2	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.7	
2071	50		0.4	0.4	1.6	2.6	0.6	0.2	4.9	4.5	
合 計		68.0	11.7	79.7	78.3	131.5	27.6	7.9	245.4	165.6	

費用便益分析シート（割引後）

EIRR= 4.7% NPV= 13 億円  
B/C= 1.2

											(億円)	
年度	施設供用 期間	社会的 割引率	初期投資・ 更新投資	運営・維持 コスト	総費用 (C)	割 引 後					総便益 (B)	純便益 (B-C)
						海難の減少	移動コスト の削減	輸送コスト の削減	救急搬送の 減少			
2011		1.37	4.6		4.6							-4.6
2012		1.32	10.3		10.3							-10.3
2013		1.27	15.2		15.2							-15.2
2014		1.22	13.4		13.4							-13.4
2015		1.17	10.3		10.3							-10.3
2016		1.12	9.1		9.1							-9.1
2017		1.08	5.6		5.6							-5.6
2018		1.04	2.7		2.7							-2.7
2019		1.00	3.0		3.0							-3.0
2020		0.96	4.4		4.4							-4.4
2021		0.92	1.4		1.4							-1.4
2022	1	0.89		0.2	0.2	1.4	2.3	0.5	0.1	4.4	4.2	
2023	2	0.85		0.2	0.2	1.3	2.2	0.5	0.1	4.2	4.0	
2024	3	0.82		0.2	0.2	1.3	2.2	0.5	0.1	4.0	3.9	
2025	4	0.79		0.2	0.2	1.2	2.1	0.4	0.1	3.9	3.7	
2026	5	0.76		0.3	0.3	1.2	2.0	0.4	0.1	3.7	3.5	
2027	6	0.73		0.1	0.1	1.1	1.9	0.4	0.1	3.6	3.4	
2028	7	0.70		0.1	0.1	1.1	1.8	0.4	0.1	3.4	3.3	
2029	8	0.68		0.1	0.1	1.1	1.8	0.4	0.1	3.3	3.2	
2030	9	0.65		0.1	0.1	1.0	1.7	0.4	0.1	3.2	3.1	
2031	10	0.62		0.3	0.3	1.0	1.6	0.3	0.1	3.0	2.8	
2032	11	0.60		0.1	0.1	0.9	1.6	0.3	0.1	2.9	2.8	
2033	12	0.58		0.1	0.1	0.9	1.5	0.3	0.1	2.8	2.7	
2034	13	0.56		0.1	0.1	0.9	1.5	0.3	0.1	2.7	2.6	
2035	14	0.53		0.1	0.1	0.8	1.4	0.3	0.1	2.6	2.5	
2036	15	0.51		0.2	0.2	0.8	1.3	0.3	0.1	2.5	2.3	
2037	16	0.49		0.1	0.1	0.8	1.3	0.3	0.1	2.4	2.3	
2038	17	0.47		0.1	0.1	0.7	1.2	0.3	0.1	2.3	2.2	
2039	18	0.46		0.1	0.1	0.7	1.2	0.3	0.1	2.3	2.2	
2040	19	0.44		0.1	0.1	0.7	1.2	0.2	0.1	2.2	2.1	
2041	20	0.42		0.2	0.2	0.7	1.1	0.2	0.1	2.1	1.9	
2042	21	0.41		0.1	0.1	0.6	1.1	0.2	0.1	2.0	1.9	
2043	22	0.39		0.1	0.1	0.6	1.0	0.2	0.1	1.9	1.8	
2044	23	0.38		0.1	0.1	0.6	1.0	0.2	0.1	1.9	1.8	
2045	24	0.36		0.1	0.1	0.6	0.9	0.2	0.1	1.8	1.7	
2046	25	0.35		0.1	0.1	0.5	0.9	0.2	0.1	1.7	1.6	
2047	26	0.33		0.1	0.1	0.5	0.9	0.2	0.1	1.6	1.6	
2048	27	0.32		0.1	0.1	0.5	0.8	0.2	0.1	1.6	1.5	
2049	28	0.31		0.1	0.1	0.5	0.8	0.2	0.0	1.5	1.5	
2050	29	0.30		0.1	0.1	0.5	0.8	0.2	0.0	1.5	1.4	
2051	30	0.29		0.1	0.1	0.5	0.8	0.2	0.0	1.4	1.3	
2052	31	0.27		0.1	0.1	0.4	0.7	0.1	0.0	1.3	1.3	
2053	32	0.26		0.1	0.1	0.4	0.7	0.1	0.0	1.3	1.2	
2054	33	0.25		0.0	0.0	0.4	0.7	0.1	0.0	1.2	1.2	
2055	34	0.24		0.0	0.0	0.4	0.6	0.1	0.0	1.2	1.1	
2056	35	0.23		0.1	0.1	0.4	0.6	0.1	0.0	1.1	1.0	
2057	36	0.23		0.0	0.0	0.4	0.6	0.1	0.0	1.1	1.1	
2058	37	0.22		0.0	0.0	0.3	0.6	0.1	0.0	1.1	1.0	
2059	38	0.21		0.0	0.0	0.3	0.6	0.1	0.0	1.0	1.0	
2060	39	0.20		0.0	0.0	0.3	0.5	0.1	0.0	1.0	0.9	
2061	40	0.19		0.1	0.1	0.3	0.5	0.1	0.0	0.9	0.9	
2062	41	0.19		0.0	0.0	0.3	0.5	0.1	0.0	0.9	0.9	
2063	42	0.18		0.0	0.0	0.3	0.5	0.1	0.0	0.9	0.8	
2064	43	0.17		0.0	0.0	0.3	0.4	0.1	0.0	0.8	0.8	
2065	44	0.16		0.0	0.0	0.3	0.4	0.1	0.0	0.8	0.8	
2066	45	0.16		0.1	0.1	0.3	0.4	0.1	0.0	0.8	0.7	
2067	46	0.15		0.0	0.0	0.2	0.4	0.1	0.0	0.7	0.7	
2068	47	0.15		0.0	0.0	0.2	0.4	0.1	0.0	0.7	0.7	
2069	48	0.14		0.0	0.0	0.2	0.4	0.1	0.0	0.7	0.7	
2070	49	0.14		0.0	0.0	0.2	0.4	0.1	0.0	0.7	0.7	
2071	50	0.13		0.1	0.1	0.2	0.3	0.1	0.0	0.6	0.6	
合 計			80.1	4.6	84.7	31.1	52.2	10.9	3.2	97.5	12.8	

参考資料 5

港湾整備事業 事業費内訳

(1) 事業費

項 目		数 量	全体事業費 (億円)	残事業費 (億円)
工事費			54	5
	竹富南航路			
	浚渫工	62,041 m3	30	5
	小浜航路			
	浚渫工	42,400 m3	17	0
	黒島航路			
	浚渫工	9,050 m3	7	0
間接経費			15	2
合計			69	7

(2) 管理運営費

項 目	数 量	全体事業費 (億円/年)
管理運営費	1 式	0.257

※H30実績値より算出した計算期間における年間平均値